

詩人は死んで蘇る



Jean Cocteau *

Jean Cocteau: Autoportrait d'un Inconnu

ジャン・コクトー、知られざる男の自画像

Jean Cocteau Erik Satie Raymond Radiguet Christian Berard Coco Chanel Igor Stravinsky Pabro Picasso Vaslav Nijinsky Sergei Diaghilev Salvador Dali Jean Marais Edouard Dermit



La Villa Santo Sospir

サント・ソスピール荘

distributed by Cable Hogue co., ltd.



ジャン・コクトー、 知られざる男の自画像

1983年/フランス/カラー&モノクロ/70分/16mm

Jean Cocteau: Autoportrait du cinéaste

監督・脚本:エドガルド・コザリンスキー 制作:クロード・ショウヴァ 撮影:ジャン・レイ・レオン 編集:ジョルジュ・クローツ、カトリーヌ・デブラツ 録音:エルヴィル・レルネル リサーチ:マルティヌ・アルマン アニメーション:ドミニク・アントワヌ
出演:ジャン・コクトー、レイモン・ラディゲ、エリック・サティ、ココ・シャネル、ヴァスラフ・ニジンスキー、セルゲイ・ディアギレフ、パブロ・ピカソ、サルバドール・ダリ、イゴール・ストラヴィンスキー、ジャン・マレー、エドゥアル・デルミット、クリスチアン・ペラル他

私の人生は興味本位に語るの代物ではなく、習慣や他者、己れ自信との長き闘いであり、無意識と意識、無秩序と厳格のせめぎ合いだ。私の人生とは、言うならば18世紀にはやった影絵のようなものだ。……我々は皆謎の中に生きている。—ジャン・コクトー

この作品は詩・小説・演劇・映画・美術と芸術のあらゆるジャンルを自在に駆けめぐったジャン・コクトーが自らの生涯を語り、これまで彼がインタビューに答えた言葉や映像を中心に、写真、ドキュメンタリー映像、絵画や詩、そして『オルフェの遺言』『詩人の血』など彼の監督した映画をコラージュして構成された〈コクトーの全て〉を語る貴重なドキュメンタリーである。

1889年に生まれ1963年に亡くなったジャン・コクトー。彼自身の自由な発想と感性は、20世紀に名を残す数々のアーティストとの交流から生まれたのだろうか？レイモン・ラディゲ、エリック・サティ、ココ・シャネル、ヴァスラフ・ニジンスキー、セルゲイ・ディアギレフ、パブロ・ピカソ、サルバドール・ダリ、イゴール・ストラヴィンスキー、新しい扉を開いた人々とコクトーの出会いも注目である。彼らの映像は、必見である。コクトーによる自分自身の証言はもちろん、この作品は彼が触れた時代の証言も満載である。

“詩人は死んで蘇る”コクトーの残した言葉である。コクトーを知る鍵、フェニクソロジー(不死鳥学)は、繰り返し彼の映画の奥深くに存在する。生と死、創造と現実、過去と現在、時間と空間、などを行き来するコクトー的世界の象徴。死者が蘇り、砕かれた花が元の姿に復元される。ジャン・コクトーにとって映画とは、そうしたフェニクソロジーが実現される魔法のメディアであったのだ。この『ジャン・コクトー、知られざる男の自画像』はまさにジャン・コクトーの考えを体現するコクトーによるコクトーの映画であり、死んで蘇った詩人の映画である。この作品はテレビ映画用に企画されたが、原案はジャン・コクトーの友人でサント・ソスピール荘の所有者であったアレック・ウェスウェレル夫人の娘キャロル・ウェスウェレルである。フランスでは、コクトーの命日の前夜、1983年10月10日にテレビで放映され、日本では1986年、1995年に劇場公開されている。

サント・ソスピール荘

La Villa Santo Sospir



監督・解説:ジャン・コクトー 撮影:W・イワノフ 撮影助手:フレデリック・ロシフ 音楽:J・S・バッハ、ヴィヴァルディ 演奏指揮:J・メタン 1952年/カラー/38分/16mm/コダクローム/レ・フィルム・デュ・カブ製作

絵を文章の別の表現方法と見なしラインの生命にこだわった詩人ジャン・コクトー。そのジャン・コクトーにとって、デッサンや絵画は重要な表現分野であり、キャンバスから壁画まで多くの作品を残している。なかでも壁画はヴィルフランシュのサン・ピエール礼拝堂やマントンの結婚式場、またミラ・フォーレのサン・ブレイズ・デ・サンプル礼拝堂が知られる。この映画はそうした壁画が描かれたサント・ソスピール荘を撮ったドキュメンタリー映画である。南仏サン＝ジャン＝カブ＝フェラにあるこの別荘はジャン・コクトーの良き理解者で後援者であったアレック・ウェスウェレル夫人フランシーヌの持ち手で、コクトー自身もしばしば滞在していた。そしてコクトーは1950年から翌年にかけてこの別荘の部屋や廊下の壁などに絵を描いた。この映画ではそうした別荘の壁画がひとつひとつコクトー自身による説明によって見せられていく。

広い庭園と別荘の全景。その中を歩くジャン・コクトー。部屋や廊下の壁、ドアの上に描かれた絵。コクトー自身が各部屋を紹介しながら自分で描いた絵を説明していく。古代ギリシャ・ローマの神話から取られた題材。アポロン、メルキュール、バックスの巫女たち、あるいはディオニソスの絵。庭園の木立や海岸の岩場にもタブラーが飾られ、コクトーと共に見せられる。それはコクトーによるコクトー論といえる。

この映画は16ミリで撮られたジャン・コクトーのプライベート・フィルムともいえるが、撮影助手のフレデリック・ロシフは1960年から『マドリッドに死す』(62年、ジャン・ヴィゴ賞)といったモンタージュ映画や『動物たち』(63年)などドキュメンタリー映画で知られる映画監督である。この映画はフランスでも当時は公開されなかった。

ELLE 200th issue anniversary SPECIAL EVENT
THE COCTEAU NIGHT
2001年4月24日(火)～26日(木)
主催 エル・ジャポン 会場 STBSイートベジ139(六本木) セラミックアート美術館
エル・ジャポンは6月号(4月28日発行)で200号!これを記念して「THE COCTEAU NIGHT」を開催、このイベントに抽選で600名様をご招待。詳しくは3月28日発売のエル・ジャポン5月号、またはユーロスペース、文化村ル・ソナマで配布の「エル・イベントスペシャルガイド」をご覧ください。

第一夜 エリック・サティ讃歌
出演 白石 准 他 ゲスト 新井 満、山本容子 ライブ・フォニック(サティの登場する映画を上映)
第二夜、第三夜 コクトーとロシアバレエの夕べ
出演 マニエール・ルグリ、パંヂヤン・パベツジュ(リウ・オハラ・バルエ) 他
※ローランブテイによる、世界初演作品の上演あり!
イベントに関する問合せ先:フェットル人権報社 マーケティング部 TEL.03-3506-6654

この詩人にとって、ペン先から流れるものはすべてが詩であった。コクトーの絵と文をコラボレートした、出版史に名を残す傑作詩集7選

<ジャン・コクトー・シリーズ>

「恐るべき子供たち」
「白書」
「阿片」
「鳥刺しジャンの神秘」
「エッフェル塔の花嫁花婿」
「ポトマック」
「わが魂の告白」
(各B5判、絵29～62点、80～248頁、1,942～2,816円)

(株)求龍堂 東京都千代田区紀尾井町3-23 TEL.03(3239)3381

ジャン・コクトー展「美しい男たち」開催記念特別レイトショー

コクトーを魅了し、創造の源となった「美しい男たち」のなかでもとりわけ舞台、そして映画のフィールドでも最もコクトーを魅了した男ジャン・マレー。コクトーとマレーが選んだ数々のコラボレーションから代表作3本を選び特別上映する。

『オルフェ』Orphée 1950年/96分/ヴェネチア映画祭国際批評家賞
4/27(金)・4/30(祝)・5/3(祝)・5/13(日)・5/19(土)
『美女と野獣』La Belle et La Bête 1945年/93分/ル・ドリュック賞
4/28(土)・5/1(火)・5/4(祝)・5/11(金)・5/20(日)
『悲恋(永劫回帰)』L'Éternel Retour 1943年/112分
4/29(祝)・5/2(水)・5/5(祝)・5/12(土)・5/18(金)
●連日PM9:25より一回上映(本編からの上映)
●料金:当日券のみ 一般1,500円/学生1,300円/シニア1,000円

Bunkamura 03 (3477) 9264
ル・シネマ

ジャン・コクトー展「美しい男たち」2001年3月31日(土)～5月20日(日) at: Bunkamura ザ・ミュージアム
関連企画『ジャン・コクトー、知られざる男の自画像』『サント・ソスピール荘』公開。
半券相互割引きあり。詳細は各会場にお問い合わせ下さい。

4月7日(土)よりレイト・ロードショー!! 連日夜9:00より一回上映

特別鑑賞券1,200円発売中!(当日一般1,500円/学生1,200円/シニア・会員1,000円の処)
劇場窓口および都内プレイガイド、チケットぴあにてお買い求め下さい。
当劇場窓口にてお買い求めのお客様には、もれなく特製ポストカードをプレゼント!!

ユーロスペース
渋谷駅南口下車2分
JTB 前さくら通り上がる
TEL. 03 - 3461 - 0211